

編 集 後 記

本号では、原著論文2編、症例報告5編、学位論文紹介6編に加え、歯学会の名誉会員になられた奥村先生、中山先生、および古市先生から、それぞれ、ご挨拶文をご寄稿いただきました。また、3月に行われた第42回学術大会の概要についてもご報告をいただきました。

原著論文の1報目は、歯周歯内治療学分野の大学院を修了された仲川先生が筆頭著者になられている研究で、インプラントの細菌汚染に対する除染方法および骨再生への影響に関する報告でした。私も細菌の調整などで協力させていただき、著者に加えていただいております。インプラント治療の有用性や信頼性を高めるためには、このような地道な基礎研究を怠ってはいけなと思っています。有益な報告であると思います。2報目は、臨床口腔病理学分野のAriwansa先生らの報告で、歯科治療に使用されるニッケルやチタン金属による歯肉上皮細胞のエピジェネティクスに及ぼす影響について検討した研究です。エピジェネティクスは、DNAの化学修飾が変化する現象のことで、老化とも関連づけられており、歯科領域でも多数の研究が報告されています。今回、炎症に関わる因子に影響が認められ、今後の研究の発展が期待されます。症例報告では、矯正治療に関する症例を、山口先生ら、田中先生ら、江上先生ら、および富田先生らから報告されました。臨床では、日々の診療が研究に直結していることを再認識しました。診療内容を論文としてまとめることは大変なことと思いますが、今後も、多くの症例を報告していただき、新たな治療や研究のヒントを提供していただきたいと思います。もう一つの症例報告は、本学卒業生の藤井先生からの報告です。査読者から、「口底部に形成された大きな血管腫は珍しく、唾石症と間違えやすいと思います。血管腫と唾石症では治療方法や専門科が異なりますので、鑑別の為の注意喚起として、掲載に値する有用な症例報告と考えられます。」と、非常に高い評価をいただいています。卒業生からのご投稿は、うれしく、また励みにもなります。今後とも、積極的なご投稿をよろしくお願い申し上げます。学位論文紹介も多数投稿していただき、ご投稿された先生方には感謝申し上げます。なお、学位論文は、本学図書館のホームページの「北海道医療大学学術リポジトリ」というサイトで公開されています。学位論文紹介をお読みにになり、興味を持たれた方は、ぜひ、本文もみていただきたいと思います。名誉会員からの寄稿文では、いずれの先生も長きにわたり、本学会及び歯学雑誌の充実に多大なご貢献をいただいたことがわかります。今後とも、ご指導ご鞭撻をお願いしたいと思います。中山先生の「『画像診断』が大好き」という言葉が印象に残りました。

いつものことですが、今回も査読をしていただいた先生方に感謝申し上げます。中山先生も寄稿文で述べられていましたが、本誌の査読をされる先生方は、非常に丁寧に論文を読んでいただいております。また、建設的なコメントを多くいただいております。このような献身的な査読によって、本誌は、有意義な雑誌になっていると思います。今後とも、論文のご投稿はもちろん、査読にもご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(永野 記)

次号（第43巻、第2号）の発行は令和6年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和6年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2024年第43巻、第1号の巻末をご参照ください。